

耕作放棄地 再生・利用の実践事例

県下には、平成21年度から耕作放棄地の再生利用に取り組んでいる地区や団体が33あります。その中から11地区について紹介しています。

これらの事例は、取組のきっかけやその背景が様々であることから、皆さんの地区にすべて当てはまるものではありませんが、これからの取組みの参考にしてください。

() は取組のキーワードを表します

- 1 笠岡市山口地区 (地域の有志、放棄地再生は農業経営、景観の保全)
- 2 久米南町山手地区 (ぶどう廃園の再生、新規参入者、産地の発展)
- 3 真庭市蒜山下和地区 (口コミで耕作依頼、工務店経営と両立)
- 4 美作市上山地区 (棚田の再生、ボランティア、観光資源)
- 5 美作市市田殿地区 (集落営農、法人経営、直売所へ出荷、加工品開発)
- 6 倉敷市真備町地区 (農業委員の仲介、農業生産法人、米屋さんの米作り)
- 7 真庭市田羽根地区 (企業参入、青大豆の特産品化、加工品開発)
- 8 新庄村高下地区 (和牛放牧、放牧の省力化、地域全体が高齢化)
- 9 高梁市玉川町増原地区 (短角牛放牧、舌草刈り、地域の理解)
- 10 赤磐市岡地区 (不在村地主、ヤギ放牧、地域ぐるみの取組)
- 11 美作市東粟倉地区 (市民農園、関西で反響、ブログを活用)

笠岡市山口地区 (キーワード) 地域の有志、放棄地再生は農業経営、景観の保全

■地区の概要

農地面積	水田等114ha
放棄地面積	18.1ha(うち農振農用地18.1ha) 緑13.7ha、黄4.4ha
主な農産物	水稲
放棄理由	高齢化、他産業への従事などにより放棄地が増えた。基盤整備が進んでいないため道に隣接していない農地が荒れてきた。
荒廃程度	雑草が繁茂し一部には灌木もあり、人力と農業用機械による作業のほかチェーンソーを用いた作業が必要。

■取組の概要■

取組主体	農業者(地域の有志3名)
取組時期	平成22年5月～
再生面積	2.7ha(H22.8月現在)
栽培作物	飼料用米
支援制度の活用	対象農地 3.0ha(計画) 交付金 2,101千円 再生作業 自走式のフレームモアを利用した草刈り後、畦付けと用水路を整備 土壌改良 化成肥料を施用 営農定着 飼料用米を栽培



取組者(大森さん、佐内さん、高木さん)



再生前の水田



再生後の水田

■お話を聞きました■

★きっかけは何ですか

- 取組主体の農業者が、農業委員になったのをきっかけに、耕作放棄された田んぼを昔のきれいな田んぼに戻したいと思い、近隣の有志とともに28筆を再生しました。

★秘訣は何ですか

- 再生するとき、自己所有のバックホウのバケットを木などをつかめるよう手づくりで改良しました。
- 草刈りには、市の放棄地協議会から歩行用フレールモア(10a当たり1時間程度)を借り受けたので、除草作業には助かりました。

★工夫したところは

- 水田の凹凸を均平にするには水田ハローが、威力を発揮しました。ほ場整備が進んでいない地区のため、耕作道が無く田越しの作業を行わなければなりません。
- 農機具の購入は、個人負担で大変でした。また、3人とも高齢なので、再生した農地を引き続き営農できる担い手を探しながら面積を増やしています。

★今後の課題は

- 田越しの作業が多く農地がまとまっていないので、今後は、連担した農地を利用権設定していきたいです。
- 今後、10ha程度まで規模拡大し、農業経営として自立できるよう法人化や集落営農を検討しています。

久米南町山手地区 (キーワード) ぶどう廃園の再生、新規参入者、産地の発展

■地区の概要

農地面積	水田27ha 畑42ha
放棄地面積	7.5ha(うち農振農用地7.5ha) 緑6.4ha、黄1.1ha
主な農産物	ぶどう(ピオーネ、オーロラブラック)、葉たばこ、水稻
放棄理由	高齢化や若者の他産業への就業が増えて、ぶどう園が耕作放棄になってきた。
荒廃程度	クズなど雑草が繁茂したり、灌木が生えたりと、ぶどう園の放棄年数により異なっている。

■取組の概要■

取組主体	認定農業者
取組時期	平成21年2月～
再生面積	1.4ha
栽培作物	ぶどう(ピオーネ)
支援制度の活用	対象農地 1.4ha 交付金 1,654千円 再生作業
耕作放棄地再生利用緊急対策)	台地機械組合員が草刈・耕起、重機による作業を実施 土壌改良 堆肥投入 営農定着 新規就農者が栽培するぶどうを定植



ぶどう部会青山部会長と
新規就農を目指す加原さん



再生後の園地



産地の遠景

■お話を聞きました■

★きっかけは何ですか

- ・新規参入者の農地確保に苦慮していましたが、ぶどう廃園を再生することで経費節減や出荷までの年数短縮になると考えました。

★秘訣は何ですか

- ・以前、廃園再生しても人夫賃を出せなかったが、今回、国の制度を使って人夫賃も払うことが出来ました。
- ・再生作業は、部会員がバックホウやチェーンソーを持ち寄ります。みんな手慣れているので、作業がスムーズでした。素人では、日数が掛かり無理です。

★工夫したところは

- ・廃園を借り受けるには、廃園後に貸してくれない期間はあるけれども、高齢化とともに貸してくれるようになるので、待つことも大切です。
- ・作業は、ぶどう棚の下での作業となるので小さい重機しか使えず、作業日数がかかります。雑木1本処理するのに半日かかることもありました。

★今後の課題は

- ・ぶどう部会員が高齢化して後継者がいない者がいるので、5年後、10年後が不安です。
- ・今は、新規参入者ら6人が頑張ってくれているが、ぶどう産地を維持・発展するには、これからも新規参入者を迎える必要がありますね。

真庭市蒜山下和地区 (キーワード) 口コミで耕作依頼、工務店経営と両立

■地区の概要

農地面積	水田 96ha 畑 24ha
放棄地面積	4.4ha(うち農振農用地1.6ha) 緑0.8ha、黄 3.6ha
主な農産物	水稻(あきたこまち、アキヒカリ、コシヒカリ)、青大豆
放棄理由	高齢化・担い手がいないこと、農機具の更新を機会に離農するなどによって耕作放棄地が発生した。
荒廃程度	雑草の繁茂、10cm程度の灌木、イノシシによる畦畔崩壊、田面の穴などにより基盤整備が必要となっていた。

■取組の概要

取組主体	認定農業者
取組時期	平成21年4月～22年5月
再生面積	9.5ha
栽培作物	飼料用稲、青大豆、アイガモ米
支援制度の活用	対象農地 0.99ha 交付金 1,475千円 再生作業
(耕作放棄地再生利用緊急対策)	雑草除去後、重機を用いて水田の均平化と畦畔形成 土壌改良 粒状肥料を散布 営農定着 水稻(一部アイガモ米)、青大豆を作付け



取組者の小椋さん親子



再生前の水田



青大豆の収穫

■お話を聞きました

★きっかけは何ですか

- ・工務店を経営していたが農業にも進出するため、個人で近隣農地を50a借り受けたところ、近隣農家から耕作放棄地となっている農地を借りて欲しいと依頼が殺到しました。

★秘訣は何ですか

- ・水田の畦畔づくりや均平作業は、トラクターより重機を用いた方が確実ですね。
- ・近隣の農地50aを引き受けたことが口コミで周辺農家に拡がり、一年間で一気に大規模経営になりました。

★工夫したところは

- ・最初は、条件の良い農地を探したが、既に大規模農家が借りた後なので適当な農地がなく、周囲には耕作放棄地がたくさんありました。
- ・耕作放棄地の再生作業を始めると、思いもなかった捨て土があったり、イノシシによる穴があったりと再生経費が膨らんでしまいました。

★今後の課題は

- ・青大豆は生豆で販売ができないので、加工用としての販路を見つける必要があります。
- ・規模拡大が急激だったため、機械装備と労働力が追いついていません。アイガモ米の有機認証を受けるなどして付加価値の高い農産物の生産・販売を目指しています。

美作市上山地区 (キーワード) 棚田の再生、ボランティア、観光資源

■地区の概要

農地面積	水田約100ha(8,300筆)
放棄地面積	4.2ha(うち農振農用地4.2ha) 緑 4.2ha、黄 ーha
主な農産物	水稻、そば等
放棄理由	米の減反で山際が荒れ始め、高齢化、不在地主、死亡などによって放棄が加速した。
荒廃程度	10数年以上は放棄されている農地が多く、笹、くずが生い茂っている。

■取組の概要■

取組主体	上山棚田再生実行委員会
取組時期	平成21年10月に実行委員会を設立(総会)
再生面積	約10ha(予定)
栽培作物	そば
支援制度の活用 (耕作放棄地再生利用緊急対策)	対象農地 4.1ha 交付金 3,082千円 再生作業 モアーによる草刈り、重機による抜根、ロータリーによる整地 土壌改良 堆肥を散布後に鋤込み



実行委員会の永井会長と
地域おこし協力隊の西口隊長



放棄された水田



再生後の棚田

■お話を聞きました■

★きっかけは何ですか

- ・過去にも、棚田再生の取組は試みられましたが、長続きしませんでした。
- ・今回は、美作市田園観光都市構想の中で、上山棚田を大芦高原と結びつけた観光資源と位置づけられ、自治会、観光組織、行政などでなる実行委員会を立ち上げました。

★秘訣は何ですか

- ・約10年前から、ボランティアで棚田再生に取り組んでいた大阪の協創LLP(有限責任事業組合)やヤンマー農機販売、地域おこし協力隊などと共に、棚田再生が本格化してきました。
- ・この指止まれ方式で、やりたい人が取り組むことで、地域に広がっていきます。

★工夫したところは

- ・この取組を、地元をはじめ多くの方々にも知って、理解してもらうのも大切です。12月4日には、そばなどの収穫祭を予定しています。
- ・地元は、この取組に反対はしない立場です。自分では耕作できないので、外から来てやってくれることは歓迎しています。

★今後の課題は

- ・地元の農業組織には新規就農者もいるので、再生後の営農活動を受けてもらうなどの検討をしています。
- ・特産品などで収入を得て、活動が長続くようにしたいです。どぶろく(特区)や梅、ブルーベリー、民泊なども模索している段階です。

美作市田殿地区 (キーワード) 集落営農、法人経営、直売所へ出荷、加工品開発

■地区の概要

■取組の概要■

農地面積	水田57.0ha 畑25.7ha	取組主体	(農) 赤田営農センター
放棄地面積	4.9ha (うち農振農用地4.9ha) 緑4.9ha	取組時期	平成22年4月～
主な農産物	水稲、野菜類等	再生面積	4.23ha
放棄理由	高齢化による労働力不足、有害鳥獣による被害が増えて耕作放棄地が拡大した。	栽培作物	水稲、大豆、WCS稲、飼料用米、野菜等
荒廃程度	雑草が繁茂し一部には灌木もあり、人力と農業用機械による作業のほかチェーンソー等を用いた作業が必要。	支援制度の活用 (耕作放棄地再生利用緊急対策)	対象農地 4.23ha 交付金 4,230千円 再生作業 雑草除去、抜根、障害物除去、耕起・整地 土壌改良 堆肥の投入 営農定着 はくさい、かぶ、サツマイモ、フキ



(農) 赤田営農センター
代表理事の永谷さん



再生前



再生された農地

■お話を聞きました■

★きっかけは何ですか

- 取組主体の代表者は農業委員ですが、他の農業委員から国営事業による開発した農地を荒らすわけにはいかないと勧められて、再生を引き受けることとなりました。

★秘訣は何ですか

- トラクターなどの農業機械の取扱いに慣れていないと、再生作業もたいへんです。
- 箕面市の彩菜みまさかへの出荷や、かぶら、はくさいの漬け物加工や豆腐加工などで付加価値を付けたら、食品会社と契約栽培して経営の安定化を図っています。

★工夫したところは

- 荒廃がひどすぎて、再生作業中に田んぼの端が分からず、どこまで機械を進めて大丈夫か分からなかった。
- 水はけが悪い湿田があるので、水はけを良くしていきたい。また、イノシシが多く出るところもありたいへんです。

★今後の課題は

- ほ場が分散して移動に時間がかかるので、集約していきたい。耕作放棄地の助成制度は、まだ知られていないので、モデルになって広めていきたい。
- 耕作放棄地の解消と言っても、何を栽培するかを明確にしないと進めにくいですね。

倉敷市真備町地区 (キーワード) 農業委員の仲介、農業生産法人、米屋さんの米作り

■地区の概要

農地面積	水田802ha 畑163ha 他
放棄地面積	27.9ha(うち農振農用地19.8ha)
主な農産物	水稲、ぶどう(ピオーネ)、たけのこ
放棄理由	高齢化、市街化による混住化、不在地主などにより地域の担い手が減少してきた。
荒廃程度	雑草が繁茂し一部にはかん木も生えて、人力と農業機械による作業が必要。

■取組の概要

取組主体	岡山ライスファーム(株)
取組時期	平成22年3月～
再生面積	0.6ha(交付金対象) 遊休農地を含む10haで耕作
栽培作物	水稲(主食用米)
支援制度の活用	支援制度は使わず、自力で再生した。 倉敷地域耕作放棄地対策協議会のフレールモアを借り受けて、雑草を処理した。



岡山ライスファーム(株)
代表取締役 吉田さん



再生作業(フレールモア)



再生後の水田

■お話を聞きました

★きっかけは何ですか

- 生産履歴が明確な米の需要を背景に、吉田米穀(株)が、農業生産法人岡山ライスファーム(株)を設立しました。農業参入時からお世話になっている担当の農業委員から紹介された農地に、耕作放棄地が含まれていたことから再生に取り組みました。

★秘訣は何ですか

- 急激な規模拡大は、縁のない地域のため担当の農業委員からの紹介が多く、農地・地域を選んでいない。
- 地域の農家のしきたりがあるので、水利や草刈りなどには必ず参加し、経営者は時間が許す限り農作業をやっています。

★工夫したところは

- 農業参入時に、融資を受けられなかったので資金繰りに苦労しました。
- 新規の参入者として周囲からの厳しい目に耐えられるよう、日々の管理に力を入れ除草や水管理に労力を費やしています。

★今後の課題は

- 早いうちに20ha程度に規模拡大や作業受託により採算が取れる経営を目指しています。
- 他産地との価格競争に優位になるようブランド化など米を高く売るための販売方法を考えなければならない。
- 農地は、水管理、規模等作業性のよいものを借り受けたい。

真庭市田羽根地区 (キーワード) 企業参入、青大豆の特産品化、加工品開発

■地区の概要

農地面積	水田 26ha 畑 7ha	取組主体	(株)大和建设
放棄地面積	2.35ha(うち農振農用地 1.4ha) 緑 1.4ha、黄 0.9ha	取組時期	平成19年～
主な農産物	水稻(あきたこまち、アキヒカリ、コシヒカリ)、青大豆、ソバ	経営面積	2.6ha うち耕作放棄地0.5haを再生
放棄理由	高齢化・担い手がないことや 相続の手続きが出来ていないこと から耕作放棄地が発生した。	栽培作物	水稻、青大豆、そば
荒廃程度	雑草が生い茂る程度。	支援制度の活用	建設業新分野進出支援事業 (平成20年度補助金2,000千円) 農業参入時に必要な農業機 械等に対する支援 企業等農業参入支援推進事業 (平成21年度補助金5,874千円) 放棄地の暗きよ、畦の形成 等の基盤整備

■取組の概要



社長の小椋さん



水稻収穫作業



■お話を聞きました

★きっかけは何ですか

- ・建設業の業務減少に伴う雇用対策として、19年に代表者の農地40aで青大豆の試験栽培を行いました。その後、市役所の勧めで農業参入し、特定法人貸付事業により、耕作放棄地も含めて2.6haの農地を借り受けました。

★秘訣は何ですか

- ・水稻の機械作業は、農業経験は無いけれども重機の操作に慣れた従業員が作業を行っています。
- ・企業として従来からの知名度と農業生産法人として新たな信頼を得たことにより、規模拡大が進んでいます。

★工夫したところは

- ・水田を借り受ける際に、基盤整備された優良農地を受けたいが、農地を選ぶことが出来なく、排水不良等で生産に苦労しました。
- ・水稻、青大豆をマニュアルどおり栽培すると生産はできますが、農産物価格が低迷しているので農薬・肥料費で採算が合いません。

★今後の課題は

- ・水稻、青大豆などの1次生産だけでは、販売収入が限られているので、青大豆の加工へ取組み、付加価値を付け、独自の販売ルートを確立する必要があります。
- ・生産コストを低減するために、建設業で排出される草と牛ふんによる堆肥を生産し利用を検討しています。

新庄村高下地区 (キーワード) 和牛放牧、放牧の省力化、地域全体が高齢化

■地区の概要

農地面積	水田15ha
放棄地面積	2.8ha (うち農振農用地2.8ha)
主な農産物	水稲(ヒメノモチ)、リンドウ、サルナシ
放棄理由	保全管理や飼料作物が生産されていたが、高齢化や酪農家の廃業により放棄されていた。
荒廃程度	ほ場の未整備や高齢化などで、約30年前から保全管理状態になり、年数回の草刈が行われていた。

■取組の概要

取組主体	農業者
経営規模	繁殖牛7頭、飼料作物2.2ha、リンドウ0.3ha、水稲0.4ha
取組時期	平成21年～ 放牧は4月～11月
放牧面積	水田2.8ha、放牧牛2頭
支援制度の活用	中山間地域等直接支払交付金の個人配分や単村制度を活用して、電気牧柵等を整備した。



和牛放牧に取り組む佐藤さん



放牧地



牛による舌草刈り

■お話を聞きました

★きっかけは何ですか

- ・放棄地の所有者に「管理してほしい」と頼まれ、少しでも手をかけない方法はないかと考え、和牛放牧に取り組むことにしました。

★秘訣は何ですか

- ・牛を1区画に3頭入れたこともあったが、1頭が仲間はずれにされたり喧嘩になったが、2頭にすると、仲の悪い牛でも自然に仲良くなります。
- ・牛が電牧に触れて驚いて逃げ出したこともあったが、一度、電牧に触れると二度と逃げ出さなくなります。電源がない場所では、ソーラー式の電牧を使うと便利ですね。

★工夫したところは

- ・農地が7か所に分散しているので、電気牧柵の設置やその周辺の除草(幅1m程度に除草剤を散布)に多くの労力がかかります。
- ・今までイノシシ被害に困っていましたが、山際に放牧しているので、最近はイノシシ被害も無くなり、予想以上の効果がありました。

★今後の課題は

- ・地区の担い手は私一人なので、これ以上の放棄地が増えたら、引き受けることはできません。現在の経営を維持するのが手一杯で、これ以上の規模拡大は難しいですね。

高梁市玉川町増原地区 (キーワード) 短角牛放牧、舌草刈り、地域の理解

■地区の概要

農地面積	水田 21.4ha 畑14.3ha
放棄地面積	7.8ha (うち農振農用地6.2ha) 緑7.6ha 黄4.2ha
主な農産物	水稲、野菜類等
放棄理由	過疎化、高齢化、若者の農業離れ、農産物価格の低迷による耕作意欲の低下等によって放棄された。
荒廃程度	背丈より高いカヤが一面に繁茂していたが、灌木はない。

■取組の概要■

取組主体	高梁市短角牛生産組合
経営規模	短角牛 8頭(親4頭、子4頭) 飼料作物
取組時期	平成20年11月～23年3月(予定)
放牧面積	約4ha
支援制度の活用	自力で実施



毎日管理する栗本さん



放牧地



短角牛

■お話を聞きました■

★きっかけは何ですか

- ・ 荒れ果てた農地をなくしたいとの思いから、高梁短角牛生産組合の実証事業による和牛放牧に取り組みました。

★秘訣は何ですか

- ・ 放牧によって、畦畔が崩れること、糞尿が河川(用水路)への流れ込み、臭いなどの問題に対して、説明会の開催や戸別訪問等により地域住民の理解を得られました。
- ・ 試験的な取組により農地が綺麗になり、地域住民の気持ちが変わってきました。

★工夫したところは

- ・ 放牧牛の餌は、1年目は雑草で十分ですが、2年目以降は、飼料作物を作付けないと、餌不足になります。
- ・ 放棄地の雑草刈払い後に、トラクターの進入路が無く耕起ができませんでした。その後蒔いたイタリアンライグラスが発芽不良により餌不足になったことから、配合飼料を与えることになりました。

★今後の課題は

- ・ 牛放牧が経営的に成り立つように頭数管理や放牧地に飼料作物など餌となる作物が生える環境づくりが必要となります。
- ・ 短角牛放牧が、周辺住民にさらに親しまれ、再生された農地を活かす新たな気持ちが生まれるような取組にしていきたいです。

赤磐市岡地区 (キーワード) 不在村地主、ヤギ放牧、地域ぐるみの取組

■地区の概要

■取組の概要■

農地面積	水田 34.3ha 畑 4.7ha	取組主体	岡中山間地振興組合
放棄地面積	2.8ha(うち農振農用地 0.6ha) 緑 0.6ha、黄 ーha	経営規模	放牧面積 0.84ha
主な農産物	水稲、黒大豆	取組時期	平成21年11月～24年3月(予定)
放棄理由	過疎化、高齢化による担い手不足、イノシシ、鹿等の有害鳥獣による被害の増加により、耕作放棄地が増加	放牧面積	水田 0.73ha、放牧ヤギ 6頭 (H22年予定) (親3頭、子3頭)
荒廃程度	背丈より高いカヤが一面に繁茂、一部に重機等を用いた抜根、障害物除去の必要。	支援制度の活用(ヤギ放牧等棚田電気牧柵、脱柵防止ネットの設置や小屋の整備など発事業)	H21～22年 農地 0.84ha 委託額 598千円



ヤギ放牧に取り組む実盛さん



ヤギの飼育小屋



ヤギによる舌草刈り

■お話を聞きました■

★きっかけは何ですか

- ・土地所有者の転出により維持管理が行われなくなった水田を、集落の共同活動で草刈りを実施していましたが、法面の傾斜も急であり、重労働で苦労していました。
- ・そのような状況の中で、ヤギ放牧による耕作放棄地の保全管理事業に取り組みました。

★秘訣は何ですか

- ・不在村地主の方からの了解を得ることと地元の理解を得ることが必要でした。
- ・耕作放棄地が中山間地域等直接支払制度の対象農地に隣接していたため、地域の理解が得やすく、集落で小屋の製作、電気牧柵の設置等を実施しました。

★工夫したところは

- ・雌ヤギの入手が困難なため徳島県の畜産農家から入手しました。また、育児放棄された子ヤギの人口授乳もしました。
- ・また、冬場は、餌となる青草がないので、干し草、米ぬか、牧草などを与えています。

★今後の課題は

- ・ヤギを繁殖し、ヤギの乳や肉等の加工品販売、ヤギを貸し出すレンタル事業などを検討しています。
- ・解消した耕作放棄地に、イタリアングラスを作付け後、再放牧し、土壌改良後、作物の作付けを考えています。

美作市東粟倉後山地区 (キーワード) 市民農園、関西で反響、ブログを活用

■地区の概要

農地面積	水田65.0ha 畑10.2ha
放棄地面積	14.2ha(うち農振農用地14.2ha)
主な農産物	水稻、野菜等
放棄理由	高齢化による労働力不足で、放棄されてきた。
荒廃程度	雑草が繁茂する程度。

■取組の概要■

取組主体	農業者
取組時期	平成22年3月～
再生面積	0.5ha(市民農園20区画)
栽培作物	ミニトマト、なす、レタス、ジャガイモ
利用料金	1区画当たり 25千円/年 (お任せ管理は、10万円/年)
支援制度の活用	自力で再生



農園設置者の水元さん 後ろは「愛の村パーク」

■お話を聞きました■

★きっかけは何ですか

- ・本業の工務店の業務が減る中で、知人から市民農園で農業をやりたいという話があったので、耕作放棄地を活用して特定農地貸付法による市民農園を立ち上げました。

★秘訣は何ですか

- ・PRは、箕面市の直売所「彩菜みまさか」にチラシを置いたり、インターネットを活用しましたが、驚くほどの反響があって、利用をお断りした方もいました。また、隣接した愛の村パークの温泉やコテージ目当ての人もいて、人気が出ています。
- ・できるだけ、化学合成農薬や化学肥料は使わないようにしています。生育状況をブログで報告したり、着払いで収穫物を宅配するオプションもあり好評です。

★工夫したところは

- ・お任せ管理は、農薬や化成肥料を使わないように心がけています。しかし、栽培管理が大変で、これ以上の区画を増やせません。
- ・夫婦連れが多く、奥さんが農業に理解があるかどうかポイントですね。

★今後の課題は

- ・利用者が何を栽培するのか、必要な作業は何かを示す必要があります。また、連作障害も心配なので、輪作の検討をする必要があります。(品目は、なす、ブロッコリー、キャベツ、はくさい、ジャガイモ、にんじん、だいこん等)
- ・途中の管理を希望する利用者が多いので、オーナー制にすることも考えています。